

学生パワーでパラスポーツ大会運営を全面的にサポート 想があれば、一步を踏み出せる

アクティブラーニングの一環として、スポーツトレーナーを目指す学生を日本パラ・パワーリフティング連盟に派遣。また、全学を挙げて大会運営もサポート。パラスポーツ支援を学生の成長の機会につなげている。また、共生社会実現へ向け、教育機関ならではの具体的な取組も検討し始めている。



日本工学院
八王子専門学校

日本工学院八王子専門学校



企業情報

学校法人片柳学園日本工学院八王子専門学校

【住所】東京都八王子市片倉町1404-1

【電話】042-637-3111(代表)

【URL】<https://www.neec.ac.jp/hachioji/>

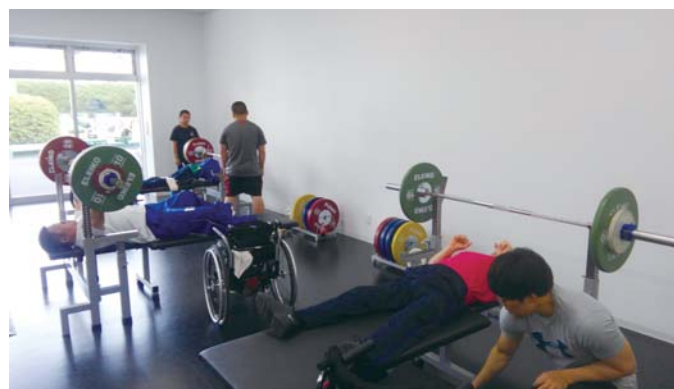


ブリックビューイングで放映していただいたんです。授業とは違う真剣勝負に挑み、失敗したら多くの方にご迷惑をかけてしまうという緊張感の中でやり遂げた経験は、学生にとって大きな財産となったと思います。」(中山総轄カレッジ長)

まずはできることから、学生の派遣をスタート

約2年前、同校はSDGs(持続可能な開発目標)の中で、示された17の目標のうち4つ目の「教育」に着目。何ができるか模索した結果、出した答えの一つが、パラアスリート支援だった。

「当校がすぐに支援できるパラスポーツって何だろうと探してたどり着いたのが、スポーツトレーナー科で学ぶ学生によるパラ・パワーリフティング選手をサポートでした。」(中山総轄カレッジ長)



学生によるパラ・パワーリフティング選手をサポート

早速、日本パラ・パワーリフティング連盟に打診したところ、同連盟は快諾。以来、同校から学生を連盟に派遣し、専門のトレーナーとともに選手のサポートに当たっている。

こうして良好な関係を築く中で、大会運営にも協力することになったとのこと。

「プロの視点から言わせていただくと、もっとエンターテインメント性を高められると思っています。音楽も照明も光の演出ももっとダイナミックなものにしたいね、なんて教員同士でも話しています。」(中山総轄カレッジ長)

伝用のポスターやチラシ、記念Tシャツのデザイン、大会当日のカメラ中継、大会運営の補助員、応援グッズや会場案内図の制作、大会運営ボランティアなど、多岐にわたって協力した。

「スポーツ団体とのコラボレーションも当校としても初の試みとなりましたし、なかなかない事例と伺っており、貴重な機会となりました。」と山野大星理事・副校長は、充実感をにじませた表情で語る。



(左)中山総轄カレッジ長 (右)山野副校長

「学生たちが作り上げたステージを映像制作を学ぶ学生たちが撮影、さらにその映像をスカイツリーでのパ

パラスポーツ支援をきっかけに、新たなビジョンを描く

「大きな資金を使わずとも、もともと保有している施設や人材を活かせば、十分にパラスポーツ支援ができることを示した日本工学院八王子専門学校。その一步を踏み出すのに必要だったのは「想い」だけでした。」と、中山総轄カレッジ長は語る。



「シンプルに施設を貸し出すということでもいいのですが、その先に人間教育をしたいといった目的があれば、自ずとパラスポーツとの関わり方も見えてくると思います。ですから、まずはパラスポーツ支援を通じて何がしたいのかという目的をしっかりと考えることが肝心ではないでしょうか。そして強い想いがあれば、あとは行動に移すだけです。相手に想いが伝われば、そこからいろいろなものが生まれるのだと、私も今回の経験で学びました。」(中山総轄カレッジ長)

同校は新たなビジョンを描いている。二葉栄養専門学校と提携しての「スポーツ栄養士トレーナー」の育成や、障がいのある方が多彩な学びのできる環境の整備や制度づくりも検討していきたいとのこと。

パラスポーツ支援をきっかけとした共生社会実現への新たな、そして具体的な取組が八王子から始まりつつある。

コロナ禍における取組・今後の方向性

ニューノーマルな時代に適した「ICTを活用したスポーツイベント」の仕組み作りにも挑戦。無観客でも盛り上がる会場、参加することへの喜びを感じることができる仕組みなど、様々な企業と連携してサポートできればと考えている。今後も本校が育成する様々な専門分野の職業人材「若きつくりびと」とともに、パラスポーツをサポートしていきたい。